

# 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和3年3月25日

法人名 社会福祉法人 都台福祉会	園名 幼保連携型認定こども園 都台こども園
---------------------	--------------------------

全体平均 4.13

第2章第2節 乳児期の園児の保育	特定の保育者と応答的な関わりにより情緒が安定し、安心して過ごせるよう十分に配慮された環境の中で、子どもが主体として受け止められ、その欲求を受容されるよう実践を深めてきた。環境を通して行う保育・教育のあり方を今後も探求していきながら、引き続き応答的な関わりを大切に個々の発達に合った環境の工夫を進めていきたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	歩行が確立し言葉の理解も進み、少しずつ自我も芽生え、友達への関心も芽生えてくる時期、子ども一人ひとりの育ちを支え、思いを受け止めながら、個人差に配慮しながら、個々の発達に応じた援助、配慮に努めた。自然環境を存分に生かし、身近な植物や生き物に触れ、五感を働かせ、子どもの自然体験を豊かに、保育内容を考え進めてきた。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	運動機能の発達により基本的な生活習慣は身につくようになり、進んで自ら行うようになる。言葉の語彙数も増え、知的理解も高まる中、自分の思いを言葉で伝えることが難しい子どもも多く、個々の寄り添いながら相手の気持ちを考えて行動することの大切さを伝えてきた。様々な遊びを通して、友達と同じ目標に向かって協力したり盛り上げていく楽しさを味わい、お互いの良さや頑張り気づくことが出来るようになった。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	清潔で衛生面に十分留意された生活や遊びの場となるよう、日々の保育環境に配慮してきた。コロナ感染の拡大防止に努めるとともに、個々の成育歴の違いに留意しながら、個々の欲求を満たし、特定の保育者が応答的に関わるように配慮してきた。保護者と信頼関係を築きながら保育を進め、子育ての相談に応じ支援にも努めてきた。
第3章 健康及び安全	コロナ感染拡大を出来る限り抑えるために、マスクの着用、消毒の徹底に努め、感染対策に努力を重ねてきた。陽性者が出た場合にも迅速に連絡、自粛協力の要請に努めてきた。安全管理については、ヒヤリハットの共有や怪我等が発生した場合は、全職員に周知、徹底を図っている。災害の備えは、避難訓練の定期的な実施をし備えている。
第4章 子育ての支援	乳幼児子育て応援事業を年間48回実施した。コロナ禍で予約制にし、人数を出来る限り制限しながらではあるが、地域の子育て支援や子育て相談に応じる努力を重ねてきた。また、園内でも子育てや子どもの発達等に不安を感じている保護者も多く、個々に個別懇談を実施した。日々の保育や遊びの様子は、園通信やドキュメンテーション、学期末のクラスだよりを通して、園の教育・保育の理解につなげてきた。
第5章 職員の資質向上	保育者一人ひとりの質の向上に向けての意識も高く、個々が目標を持ち取り組みを進めている。園内も各分野の研修講師を招き、専門性の向上に努め、コロナ禍ではあるが、オンライン研修、他園の公開保育にも出かけ質の向上に取り組んできた。
総合	子ども主体の保育の転換を初めて2年目。ウィズコロナとともに行事の方向性やねらいを見つめ直し、子どもの育ちの保障を意識しながら遊びの連続性や深まりを探究してきた。子どもの思いや気づきを大切に、興味、関心を遊びにつなげていくことに重点を置いてきたが、保育者の力量や経験不足により子どもの育ちの保障に課題を感じることも多く、保育技術の指導や年齢ごとの「子ども理解」を深めていくことが更に求められる。コロナ禍により、家庭との連携が難しい状況のなか、園の教育・保育理念の保護者理解、「幼保小架け橋プログラム」に基づく地域の学校園との連携にも次年度は引き続き努力を重ねていきたい。

**データ表**

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.33
「3歳未満児保育」	32	4.25
「3歳以上児保育」	53	3.74
「教育保育の配慮事項」	16	4.31
「健康・安全」	29	4.10
「子育ての支援」	18	4.39
「職員の資質向上」	9	4.89
計	172	4.13

**データグラフ**

